

# 地理歴史科(世界史B)学習指導案

ヨーロッパ世界の形成と発展  
(高等学校 第2学年)  
神奈川県立総合教育センター



【『平成20年度研究指定校共同研究事業(高等学校)授業改善の組織的な取組に向けて』  
平成21年3月】

平成20年度研究指定校である光陵高等学校において、授業改善に向けた組織的な取組として授業実践を行った学習指導案です。

生徒が学習を通して作り上げる時代像を確認し、さらに発展的に探究するための「まとめレポート」や資料を活用して作成する「ミニレポート」を取り入れ、それらの内容についての発表を行わせる学習指導を行いました。

光陵高等学校「世界史 B」学習指導案

1 学 年 第 2 学年

2 科目名 世界史 B

3 単元名 (教科書名) ヨーロッパ世界の形成と発展 (山川出版社「詳説 世界史 改訂版」)

4 単元の目標

ヨーロッパ世界の形成と発展について、資料の読解や分析を通して考察し、その歴史的意義について思考するとともに、多面的に理解を深め、体系的な知識を身に付ける。

5 単元について

教材観・題材観

題材として取り上げる 5 世紀から 15 世紀のヨーロッパ社会は、生徒にとっては身近に感じられない時代である。当時の資料 (文書史料、絵画資料など) の読解や分析を通して、現代社会との共通点や相違点を理解することによって、営々と培われてきた人間社会の連続性を見いだすことができると考える。

生徒観 (生徒の状況)

中学校での歴史学習においては、ほとんど扱われていない時代なので、強く興味・関心をもっている者以外は、この単元に関する理解は白紙に近い状態であると考え。また、知識を習得する力は十分にあるが、一步踏み込んで活用し探求する姿勢は弱く、資料を深く読み込み、分析することに慣れていないと考える。

指導観 (主な支援)

5 世紀から 15 世紀のヨーロッパ社会を理解するための基本的な知識を定着させ、これを踏まえた上で、取り組みやすいテーマを幾つか提示し、資料の読みみや、分析への足掛かりとする。

6 解決を目指す課題

知識を習得する力は十分あるが、習得した知識を活用し探究する力や、資料を深く読み込み、まとめて表現する力が十分ではない。

7 課題解決の方法

- ・時代像の把握状況を確認するまとめレポートの作成とその発表
- ・資料を活用してのミニレポートの作成とその発表

8 課題解決の状況を確認する方法

7 の作成物の作成状況

9 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の時間数 10 時間扱い (1 時間の授業は 90 分)

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
ヨーロッパ世界の形成と発展について、多面的に理解し、意欲的に追求しようとしている。	ヨーロッパ世界の形成と発展について考察し、その歴史的意義を適切に判断している。	ヨーロッパ世界の形成と発展に関する資料を活用するとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現している。	ヨーロッパ世界の形成と発展について、理解し、体系的な知識を身に付けている。

## (3) 指導と評価の計画 ( 1 時間の授業は 90 分 )

時	学習内容	指導内容	評価規準 【評価の観点】	評価方法
1	・ローマ帝国末期とゲルマン人の移動による国家形成について理解する。	・ローマ帝国末期の状況について説明する。  ・ゲルマン人の移動について地図を作成し、移動ルートを文章で表現させる。(発言者6人程度)	ゲルマン人の移動について理解している。 【知識・理解】  ゲルマン人の移動を、地図を使って適切にイメージしている。 【資料活用の技能・表現】 作成した地図を基に文章表現をしている。 【資料活用の技能・表現】	基本事項の授業プリントへの記入状況  地図の作成状況  文章表現の内容  定期試験
2	・フランク王国の形成・発展及び分裂について理解する。  ・フランス、ドイツ、イタリアの成立について理解する。	・フランク王国の形成と発展の流れ及びローマ教会との関連について説明する。  ・フランク王国の分裂とフランス、ドイツ、イタリアの成立の過程について説明する。	フランク王国とローマ教会との結び付きの意義について理解している。 【知識・理解】 分裂の状況を地図から適切に読み取っている。 【資料活用の技能・表現】	基本事項の授業プリントへの記入状況  地図の作成状況  定期試験
3 ・ 4	・ノルマン人の移動とイギリスやロシアなど他のヨーロッパ主要国家成立について理解する。	・ノルマン人の移動の状況について、特にイギリスやロシアの起源とのかかわりについて説明する。 <題材> バイユーのタペストリー ・ノルマン人の移動の状況について、地図上に再現する作業を行わせる。  ・ワークシートでゲルマン人及びノルマン人の移動について、その歴史的意義についての考えや、授業を通して疑問に感じたことをまとめさせる。	ノルマン人の移動について、基本事項を理解している。 【知識・理解】  ノルマン人の移動の状況について、地図から適切に読み取っている。 【資料活用の技能・表現】 ゲルマン人及びノルマン人の移動について、その歴史的意義に関する考えをまとめ、疑問点を明確にしている。 【思考・判断】	基本事項の授業プリントへの記入状況  地図の作成状況  プリントの記入状況  定期試験

<p>5 ・ 6</p>	<p>・キリスト教会の発展について理解する。</p> <p>・十字軍とその影響について理解する。</p> <p>・十字軍に関するミニレポートのテーマを決定する。</p>	<p>・ヨーロッパ中世におけるローマ教皇権力と世俗君主(皇帝や国王)のかかわりについて説明する。</p> <p>&lt; 題材 &gt; 叙任権闘争</p> <p>・十字軍遠征の背景と結末について、資料の活用を通して理解させる。</p> <p>&lt; 題材 &gt; 教皇の演説文 イェルサレム占領時の記録</p> <p>・十字軍に関するまとめレポートとミニレポート作成について説明し、利用可能な資料を提示する。</p>	<p>宗教が、政治や日常生活に深くかかわっていたことを理解している。 【知識・理解】</p> <p>十字軍遠征の背景と結末について理解している。 【知識・理解】</p>	<p>基本事項の授業プリントへの記入状況</p> <p>基本事項の授業プリントへの記入状況</p> <p>定期試験</p>
<p>7 (本時) ・ 8</p>	<p>・十字軍に関するまとめレポートとミニレポートの発表を行う。(各3人程度)</p> <p>・中世ヨーロッパにおける商業活動の状況と、その歴史的意義について理解する。</p> <p>・商業活動に関するミニレポートのテーマを決定する。</p>	<p>・十字軍に関するまとめレポートとミニレポートの発表を通して、発表者と聞き手の双方にまとめを行わせる。</p> <p>・中世ヨーロッパにおける商業活動の状況について、資料の活用や地図の作成を通して理解させる。</p> <p>&lt; 題材 &gt; 図版 当時の文書資料</p> <p>・商業活動に関するまとめレポートとミニレポート作成について説明し、利用可能な資料を提示する。</p>	<p>レポート作成を通して授業で得た知識などを活用し、十字軍遠征の歴史的な意義を理解しようとしている。 【関心・意欲・態度】</p> <p>資料の活用や地図の作成を通して、当時の経済活動の状況を適切に表現している。 【資料活用の技能・表現】</p>	<p>レポートの作成状況</p> <p>地図の作成状況 資料の読み取りの内容</p> <p>定期試験</p>

<p>9</p>	<p>・商業活動に関するまとめレポートとミニレポートの発表を行う。(5人程度)</p> <p>・英仏の政治制度の発達と百年戦争について理解する。</p> <p>・英仏関係史に関するミニレポートのテーマを決定する。</p>	<p>・商業活動に関するまとめレポートとミニレポートの発表を通して、発表者と聞き手の双方にまとめを行わせる。</p> <p>・英仏の関係の変化を軸にして両国の政治制度や百年戦争について理解させる。</p> <p>&lt; 題材 &gt; マグナ・カルタ</p> <p>・英仏関係史に関するまとめレポートとミニレポート作成について説明し、利用可能な資料を提示する。</p>	<p>レポート作成を通して授業で得た知識などを活用し、商業活動の歴史的な意義を理解しようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>英仏の関係や政治制度の発達及び百年戦争について基本的な事項を理解し、この時代の政治制度の発達が現代の政治制度へおよぼした影響などについて適切に考察している。 【思考・判断】</p>	<p>レポートの作成状況</p> <p>基本事項の授業プリントへの記入状況</p>
<p>10</p>	<p>・英仏関係史に関するまとめレポートとミニレポートの発表を行う。(5人程度)</p> <p>・イベリア半島の情勢とレコンキスタ史について理解する。</p> <p>・中世ヨーロッパ全体のまとめを行う。</p> <p>・イスラームについてのイメージを考える。(次の学習分野へのステップとして)</p>	<p>・英仏関係史に関するまとめレポートとミニレポートの発表を通して、発表者と聞き手の双方にまとめを行わせる。</p> <p>・イベリア半島の情勢を軸に、レコンキスタを通してキリスト教とイスラームの関係について理解させる。</p> <p>&lt; 題材 &gt; イベリア半島におけるイスラーム文化の例</p> <p>・ワークシートで中世ヨーロッパに関する、全体的なまとめを行わせる。</p> <p>・イスラームに関するアンケートを行う。</p>	<p>レポート作成を通して授業で得た知識などを活用し、英仏関係史の歴史的な意義を理解しようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>イベリア半島の情勢や、レコンキスタについて基本的な事項を理解している。イスラーム世界との接点としてのイベリア半島史を把握している。 【知識・理解】</p> <p>中世ヨーロッパの歴史について理解したことを自分の考えとしてまとめ、疑問点を明確にしている。 【思考・判断】</p>	<p>定期試験</p> <p>レポートの作成状況</p> <p>基本事項の授業プリントへの記入状況</p> <p>ワークシートの内容</p> <p>定期試験</p>

\* ミニレポートは、イスラーム史でも同様に継続し、最終的にはクラスの全員が発表者の立場を体験させる。

## (4) 観点別評価について

指導と評価の計画に記載した評価規準の一部について、「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例と、「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だてを記載した。評価規準の(時)は指導と評価の計画にある「時」とした。

## 【関心・意欲・態度】

学習活動における具体の評価規準(7・8時)	レポート作成を通して授業で得た知識などを活用し、十字軍遠征の歴史的な意義を理解しようとしている。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例	ミニレポートのテーマ設定に独自性がある。調べることで何か新しい知識を得ようとして多岐にわたる調査をしている。クラスメートの発表と自分の考えを比較し、理解を深めようとしている。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	テーマ設定のヒントを提示するなどして、レポート作成を促す。

## 【思考・判断】

学習活動における具体の評価規準(3・4時)	ゲルマン人及びノルマン人の移動について、その歴史的意義に関する考えをまとめ、疑問点を明確にすることができる。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例	歴史的意義を考えるに当たって、現代とのつながりや関係性、あるいは時代背景の違いを含めて考えることができる。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	考える方向性などを、ヒントを示すなどして考えることを促す。

## 【資料活用の技能・表現】

学習活動における具体の評価規準(7・8時)	資料の活用や地図の作成を通して、当時の経済活動の状況を把握し、適切に表現している。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例	資料の読解や分析を、ミニレポートや授業プリントのまとめの中に適切に盛り込むなど効果的に活用している。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	授業中の取組状況から、声掛けや不明な点の確認を行う。

## 【知識・理解】

学習活動における具体の評価規準(5・6時)	十字軍遠征の背景と結末について理解している。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例	正しく体系的な知識を基に、授業プリントのまとめやミニレポートのまとめが作成され、定期試験において正しく解答している。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	学習上の理解が不十分な点を振り返らせ、レポートなどの作成を促す。

10 本時の展開（単元の 7 時間目）

(1) 本時の目標 ヨーロッパ中世の経済活動について、基本的事項の理解を深め、資料の読取や分析を通して、その時代像を把握する。

(2) 本時の指導過程

過程	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価規準【評価観点】(評価方法)
0～30分 (30分)	・十字軍をテーマとしたまとめレポートとミニレポートを発表する。(各3人)	・生徒自身が行ったまとめや作成したレポートを発表させる。(テーマ、要約した内容)	・レポートを読み上げるのではなく、適切に要約しながら発表させる。 ・発表者以外の生徒はメモをとるよう に注意する。	レポート作成を通して授業で得た知識などを活用し、十字軍遠征の歴史的な意義を理解しようとしている。 【関心・意欲・態度】 (レポートの内容)
30～35分 (5分)	・発表内容を踏まえて、まとめをレポート用紙に記入する。	・発表を聴いて分かったことや疑問に思ったことをまとめさせる。		
35～65分 (30分)	本時のテーマである中世の商業活動についての学習 ・商業圏の特色について理解を進める。 <題材> 地中海商業圏 北ヨーロッパ商業圏	・地図や文書、図版などの資料を用いて商業圏の位置関係や交易活動の特色を把握させる。	・十字軍と経済の発展の関連性を意識させる。 ・資料から読み取る情報についてヒントを示しながら理解を促す。	資料の活用や地図の作成を通して、当時の経済活動の状況を把握し、適切に表現している。 【資料活用の技能・表現】 (基本事項の授業プリントへのまとめの状況)
65～85分 (20分)	・当時の都市生活について、イメージをつかむ。( ) <題材> 「中世の店舗」 「サン・ド二年代記」	・文書、図版などの資料を通して読み取った当時の都市生活の具体像を表現させる。	・資料から読み取る情報についてヒントを示しながら理解を促す。	
85～90分 (5分)	本時のまとめ ・( )の学習活動が、次回の学習活動につながることを理解する。	・十字軍関係のレポートを回収する。	・本時で取り組んだ学習内容の進捗状況を各自で確認するように促す。	

## 11 解決を目指した課題の解決の状況

今回の単元も含め、その後 4 クラスすべてで、4 回のレポート発表を行った。回数を重ねるにつれて、各自でテーマを設定することに慣れてきた生徒も見受けられる。テーマ設定について質問をする生徒に対しては、具体的過ぎるヒントを提示することは避け、できるだけ自分で考えてくるように指導した。授業の内容を踏まえて更に発展的に調べてくる生徒も見受けられるようになった。例えば、「マイスタージンガーと謝肉祭」「メディチ銀行の発展」「東方貿易における貿易品の変化」「三部会のその後」「アルプケルケの活動」「フェニキア人のアフリカ就航」などである。

発表内容を聞きながらその内容を要約して記録する場面では、「板書事項を書き写すこととは違った意味で集中しなければならないので、なかなか難しい。」との感想を述べる生徒もいたが、こうした能力が社会生活の中で求められことを生徒なりに理解していると感じる。

地図や図版を見ながら、時代のイメージを把握したり推測したりすることを通して理解をより深めさせることを意図しているが、授業中に使った地図や図版について興味をもって質問する生徒も出てきた。

## 12 授業実践に関する課題

当日までに準備が整わない生徒は、期限が過ぎてもがんばって提出するように指導している。レポート作成のときに何を資料として調べるのか、安易にインターネットの検索で済ませていないか、など事前にもう少し細かな指導をしたい。

発表者に対しては、調べてきたことを全部読み上げるのではなく要約して話すよう指導しているが、やはり棒読みになる生徒がほとんどである。今回は一人 1 回なので難しかったが他教科、他科目でも発表の機会を設けていければと考える。また、自分が設定したテーマは的はずれではないかと不安をもつ生徒もいる。こうした不安は実際に話を聞いてみると杞憂なのだが、本校生徒が「自分で調べたいことを考え、資料を読み込んで調べる」ことに慣れていないことによる自己の学力に対する自信のなさがうかがえる。自信をもたせる教育とは何かを考える必要がある。

世界史という科目の特性上、生徒の日常生活では身近に感じられない学習内容が多いが、できるだけ興味をもてる資料を授業の中で提示していくことが今後必要である。研究授業では時間が不足し、用意した資料の一部の学習内容は次の時間に行った。教員側の授業の組立ても工夫していかなければならない。



第6章 ヨーロッパ世界の形成と発展 その5  
 ~西ヨーロッパ世界の成立(5)

HR NO. Name

【 5、キリスト教会の発展と十字軍 】

< キリスト教会の発展 >

A. 聖職階層制 = ( )

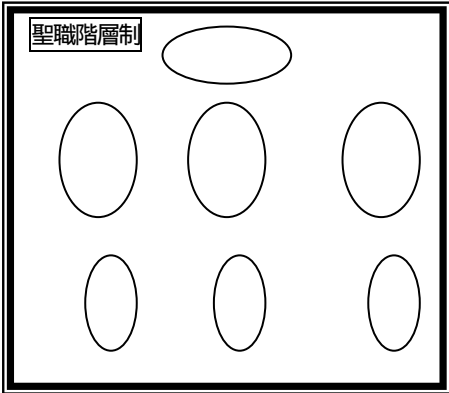
・ 教会は、国王・諸侯などから土地の寄進を受けることで領地を拡大し、( )として政治的な影響力も強めていった。

・ 聖職階層制 = ( )

・ 信仰上の問題や教会内部の規律は、( )における決定が最高の権威とされた。

・ しかし、権力や領土・財宝などが有力な教会に集まりはじめると、規律が緩み腐敗が生じた。 例えば… ( ) など

・ 改革運動の興隆 ( )による改革運動



< ローマ教皇と世俗君主の対立 >

・ 11世紀後半にローマ教皇となった( )は教皇権の至上性と、世俗権力に対する優越を主張し、帝国教会政策を推進していたドイツ皇帝(神聖ローマ皇帝)である( )と激しく対立。特に、( )権をめぐって両者は一歩も譲らない構えを見せた。これを( )という。

( )年 ( )事件が象徴的

注2) カノッサ事件とは

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

・ カノッサ事件の後も ( )は継続 最終決着は、\*( ) ( )年

・ 教皇権力は、\*( ) (在位 1198 年 ~ 1216 年) が絶頂期である。

< 十字軍 1096 年 ~ 1270 年 >

十字軍とは…?

注3) 当時のローマ教会と、コンスタンティノープル教会の関係は?

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

A.) 開始に至る情勢とその要因

・ ( )年 ( ) ローマ教皇( )の演説

・ この演説で、教皇は何を訴えたのか?

・ 複雑な要因

B.) 経過 … 遠征回数は諸説あり。通常は 7 回とする。

年 代	参 加 勢 力	主なイスラム勢力	主 な 経 過 と 結 果
第 1 回 (1096 ~ 1099)	フランスの諸侯や 騎士 + ビザンツ軍	( )朝 都 <u>バグダード</u>	イェルサレムを占領(1099) イェルサレム王国成立 周辺には <u>十字軍国家</u> も成立
第 2 回 (1147 ~ 1149)	ドイツ皇帝 フランス国王	( )朝	十字軍国家のひとつエデッサ伯国が滅ぼされたことをき っかけに遠征 失敗
第 3 回 (1189 ~ 1192)	ドイツ皇帝 _____ イギリス王 _____ フランス王	( )朝 都 <u>カイロ</u> 初代 ( )	サラ-フ = アッディーンによるイェルサレム占領(1187) を きっかけに遠征開始
第 4 回 (1202 ~ 1204)	フランスの諸侯や 騎士	<u>アイユーブ朝</u>	攻撃目標を、アイユーブ朝の本拠地 <u>エジプト</u> とした。その ため海上輸送に( )の商人に依頼
少年十字軍	フランスの少年少女		殆どが奴隷として売り飛ばされた。
第 5 回 (1219 ~ 1221)	ドイツ皇帝 フリードリヒ 2 世	<u>アイユーブ朝</u>	アイユーブ朝の内紛に乗じて、外交交渉により、イェルサ レムを取り返した。その後 1244 年にイェルサレムは再び イスラム勢力下におかれる。
第 6 回 (1248 ~ 1254)	フランス王 ルイ 9 世	<u>アイユーブ朝</u>	ルイ 9 世はカイロを攻撃したが逆に捕虜にされた。
第 7 回 (1270)	フランス王 ルイ 9 世	( )朝	ルイ 9 世は、北アフリカに十字軍の拠点を築こうとしたが、 病没

・ 十字軍国家も( )朝の攻撃を受けて相次いで滅亡した。

アンティオキア侯国(1268 年滅亡)、トリポリ伯国(1289 年滅亡)

**最後の砦があったアッコンは 1291 年に陥落**

・ \*宗教騎士団 = Ritterorden の登場

騎士階層以上の身分から募集された。主に貴族の次男・三男が集まった。団員は修道士の性格を併せ持つ。聖地への巡礼者  
の保護・傷病兵の看護・聖地の警備などを請け負った。 聖ヨハネ騎士団 テンプル騎士団 ドイツ騎士団

C.) 「十字軍」はヨーロッパ社会にどんな変化をもたらしたか？

発展レポート用紙にまとめてみよう。

**重要!! 考えよう!!!!**

グレゴリウス 7 世の  
肖像画

(著作権の関係で肖像画は掲載していません。)

ハインリヒ 4 世の  
肖像画

(著作権の関係で肖像画は掲載していません。)

インノケンテゥウス  
3 世の肖像画

(著作権の関係で肖像画は掲載していません。)

グレゴリウス 7 世 (左) ハインリヒ 4 世 (中) インノケンティウス 3 世 (右)

### ウルバヌス 2 世の演説

< 橋口倫介 『十字軍』 (岩波新書) 岩波書店 > より演説部分を抜粋

### 十字軍のエルサレム入城

< セシル=モリソン 『十字軍の研究』, 橋口倫介訳 白水社 > よりエルサレム入城の場면을抜粋

### 解説

十字軍の戦士たちはエルサレム攻略後、多くのムスリムを虐殺した。こうした姿勢は約 100 年後にエルサレムを

だっかん  
奪還したサラディン(サラーフ=アッディーン)のキリスト教徒に対する穏やかな対応と対照的である。

## 第6章 ヨーロッパ世界の形成と発展その5～西ヨーロッパ世界の成立 発展レポート

HR NO. Name

【授業プリントNO.24からの課題】

「十字軍」はヨーロッパ社会にどんな変化をもたらしたか？ 資料プリントを参照してまとめましょう。

ローマ教皇の権威はどうか？

---

---

---

従軍した諸侯や騎士はどうか？ また国王の立場はどうか？

---

---

---

ヴェネツィアなど北イタリアの商業都市は？

---

---

---

文化的な影響は？

---

---

---

【まとめの課題 - 1】

授業プリントNO.24でのキリスト教会や十字軍に関する学習を振り返って、**あなたが理解したことをまとめなさい。**

---

---

---

---

---

【まとめの課題 - 2】

授業プリントNO.24でのキリスト教会や十字軍に関する学習を振り返って、**あなたが疑問に思った点をまとめなさい。**

---

---

---

---

---

【まとめの課題 - 3】

授業プリントNO.24内の \*印の箇所について1箇所選んで、テーマを設定して調べたことをまとめなさい。

テーマ [ ]

---

---

---

---

---

---

---

---

参考にした書物名 ( )・( )

【まとめの課題 - 4】

クラスメイトの発表を聞いて、理解できたこと、さらに疑問に思ったことなどをまとめておこう。

---

---

---

---

---

---

---

---

さらに調べた内容… 

---

---

---

---

---

---

---

---

参考にした書物名 ( )・( )

【まとめの課題 3】までの提出日 月 日( )17:15まで

【まとめの課題 4】終了後の提出日 月 日( )17:15まで

# 第6章 ヨーロッパ世界の形成と発展 その6 ～西ヨーロッパ世界の成立(6)～

世界史B授業プリント 25  
教 145P～147P  
資料集 116P～117P

HR NO. Name

## 【 6. 経済の発達と商業都市の興隆 】

### < 経済活動の活性化 >

- A.) 生産力の向上 余剰物の交換や取引 ( )による取引 定期( )の成立  
( )の成立と発達
- B.) 十字軍遠征の影響で、( )や( )との経済的な交流が拡大、( )交易

### < 商業圏の成立 >

#### A.) 地中海商業圏

・ 北イタリアの諸都市を中心とした商業圏、( )を舞台に( )・( )と交易。

注1) 北イタリアの諸都市と主な産業

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

これを( )貿易という。

注2) レヴァント貿易ではどんな品物が取引されたか?

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

#### B.) 北ヨーロッパ商業圏 (資料集では、「北海・バルト海商業圏」と表記)

・ 北海やバルト海沿岸の都市を中心とした商業圏。

注3) 北海やバルト海沿岸の都市

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

注4) この商業圏ではどんな品物が取引されたか?

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

(\* 1648年に同盟は解散した。)

・特に、北ドイツの都市は、( )市を盟主とした( )同盟を結成。軍を雇って都市の利益を守った。

在外商館 ( )・( )・( )・ベルゲン

#### C.) 地中海商業圏と北ヨーロッパ商業圏を結ぶ商業圏 (内陸部に位置)

> ( ) 地方の定期市

シャンパーニュ地方の商業都市で2ヶ月に一回、大市を開催 一回あたり約6～7週間にわたって開催

1月 ラニー 3月 パール=シェル=オーブ 5月 プロヴァン 7月 トロワ 9月 プロヴァン 11月 トロワ  
取引する商品の順番も決まっていた。 「織物の市」 「皮の市」 「秤の市」

> **南ドイツの商業都市**

ドナウ川の上流に位置する( )や( )は近郊の銀山から産出される( )によって繁栄

< **商業の発達にともなって…** >

・様々な国の商人たちが都市で商業活動をするようになったため、様々な貨幣が流通した。  
両替業務、預金業務 送金業務などお金に関わる業務を行う者が登場、いわゆる( )が始まる。

< 商業都市はどんな存在だったか？ 住人の生活は？ >

A.) 北イタリアの商業都市

・カロリング朝断絶後、強力な政治勢力が空白状態であったため、都市部の住民の団結はかえって高まった。  
都市共和国(一種の都市国家)を形成。後に、裕福な大商人が市政を牛耳るようになる。

B.) ドイツの諸都市

・一定額の納税を条件にドイツ皇帝から自治権を獲得するケースが多かった。

C.) 都市住民の生活

・ 税負担能力のある者が「市民」である。

結構 重要！現在の常識とは少し違う…

【都市に住んでいる = 市民】ではない!!!

・ ( ) = 同業組合)に所属すること！

( )

( ) = 同職ギルド)…手工業者のうち、( ) = 親方)の称号を有する者が加盟する。

注5) 手工業者育成制度としての( )制度

---

---

---

---

---

---

---

ブレーメン(ドイツ)の街並み

街並みの写真

(著作権の関係で写真は掲載していません。)

街並みの写真

(著作権の関係で写真は掲載していません。)

ヴェネツィア上空

ヴェネツィア上空からの航空写真

(著作権の関係で写真は掲載していません。)

ノヴゴロドの街並み

(当時の絵画より)

ノヴゴロドの街並みを描いた当時の絵画

(著作権の関係で絵は掲載していません。)



世界史 B アンケート 2008.12

後期の授業から、皆さんにレポートの作成や発表(を聴いてまとめる)をしてもらっています。  
この学習活動を通して皆さんに伸ばしてほしい力があります。  
それは以下の通りです。

自分が受けた授業の内容について振り返る機会を持ってもらう。(定期テストの準備以外に)  
授業でわかったこと、あるいは疑問点を整理する力を身につける。

自分の力で調べることに積極的にとりくむ。

自分が調べてきたことを、自信を持って他者に披露する。

他者の話を聴いてその場でまとめ、記録する力を伸ばす。

まだ2回目が終了したばかりですが、皆さんはどうでしょうか。

1. レポートの作成にどのくらい時間がかかりましたか。 ( 約 )

2. レポートの作成や発表(を聴いてまとめる)の学習活動に取り組んだことで、自分が苦勞したこと、大変だったことを書いてください。

3. レポートの作成や発表(を聴いてまとめる)の学習活動に取り組んだことで、自分にとってよかった、ためになったと思えることを書いてください。

HR NO. \_\_\_\_\_